【野菜】の【積雪】対策について
＜１～３月＞

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

（１）予想される被害状況

積雪による施設等の破損、これに伴う施設内作物の茎葉損傷などの物理的被害、低温障害。

停電による暖房機の停止に伴う低温障害等、２次的な災害についても注意が必要。

【施設野菜】

（２）事前対策

暖房施設がある場合は、暖房機の温度設定を高めに設定し、施設内温度が維持できようであれば、内張りビニルは解放して融雪することで積雪による破損や倒壊を防ぐ。

積雪の程度を確認しながら、暖房機の温度設定や内張りビニルの解放度合いを調整する。

暖房設備の無い雨よけハウスは積雪によりパイプの破損などの被害が予想されるので、積雪前に被覆資材を除去する。

（３）事後対策

低温や日照不足で草勢が低下した場合は、葉面散布を行う。

【露地トンネル栽培】

（２）事前対策

支柱が湾曲するなどの被害が想定されるので、積雪前に被覆資材を除去するなどの事前対策を実施する。一方で被覆を除去すると作物に被害が出る可能性がある場合は被覆の除去などの事前対策は行わない。

（３）事後対策

支柱が湾曲した場合は雪を除去し、新しい支柱がある場合は交換する。

茎葉の損傷がある場合は薬剤散布を行う。

※ 県内では積雪の事例が少ないため、対策の詳細はＪＡ全農ホームページ「アピネス／アグリインフォ」内（http(:)//www.agri.zennoh.or.jp/）の【自然災害対策】「第４章.園芸施設における降雪・積雪対策について」を参照してください。

【野菜】の【低温】対策について
＜１～３月＞

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【野菜】（施設野菜）

（１）予想される被害状況

低温による草勢低下。収量減。

（２）事前対策

地温の低下を防ぐため、通路への敷き藁の設置を行う。

暖房機を点検・整備し、不着火や不完全燃焼等が発生しないように整備しておくとともに、燃料が十分にあるか、設定温度が適正か等を確認しておく。

内幌３重被覆やサイドスカートなどのすきまを点検・補修して、施設内の温度低下を防ぐ。

極端な低温が予想される場合は、暖房機の設定温度を１～２℃高めに設定しておく。

（３）事後対策

適温管理（被覆資材の開閉作業、加温機の設定）の実施。

【露地野菜】（トンネル栽培）

（１）予想される被害状況

低温による枯死、生育遅延。

（２）事前対策

ビニル、不織布等資材を設置し、低温による枯死、草勢低下を防ぐ。

（３）事後対策

トンネルの開閉管理（夜間の密閉、昼間の換気）を徹底する。

【さといも（中晩生）、しょうが、かんしょ】

１２月以降は、凍傷害が発生するため、収穫、貯蔵作業を急ぐ。さといもをほ場で貯蔵する場合はマルチを除去し再度培土を行う。かんしょとしょうがはほ場で貯蔵しない。

【だいこん、はくさい】

低温に当たると、花芽が形成されて抽台するため、低温に当たらないようにする。